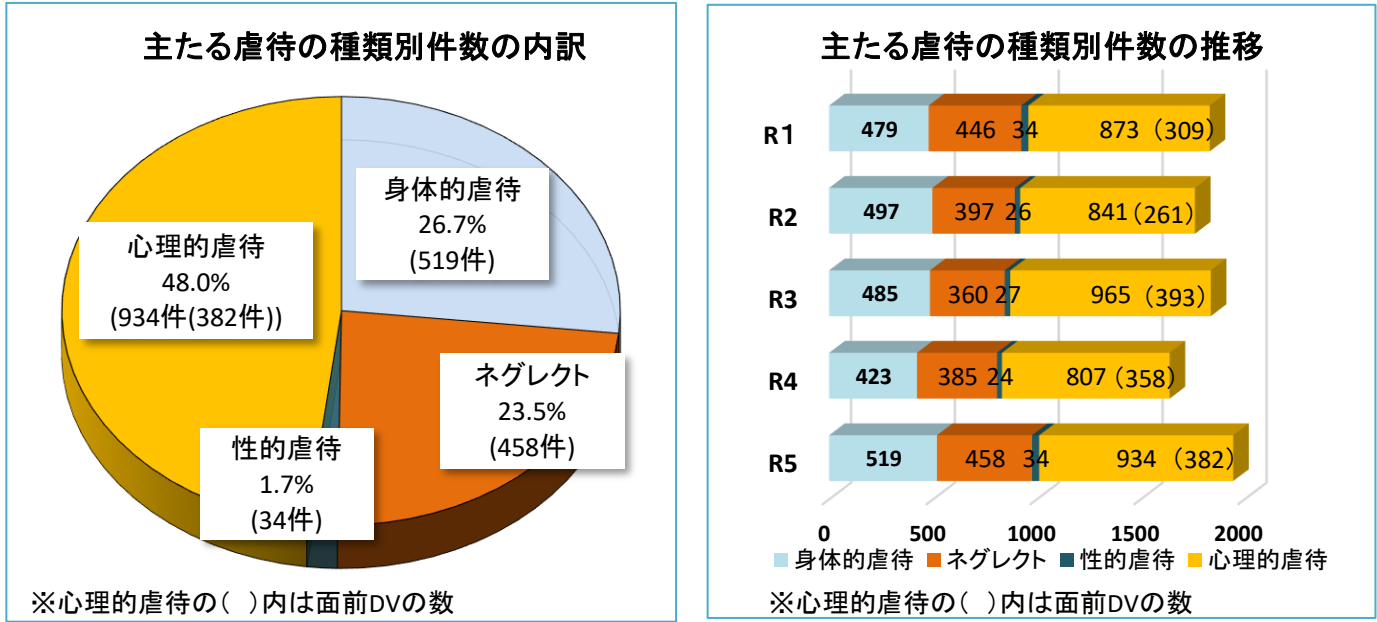
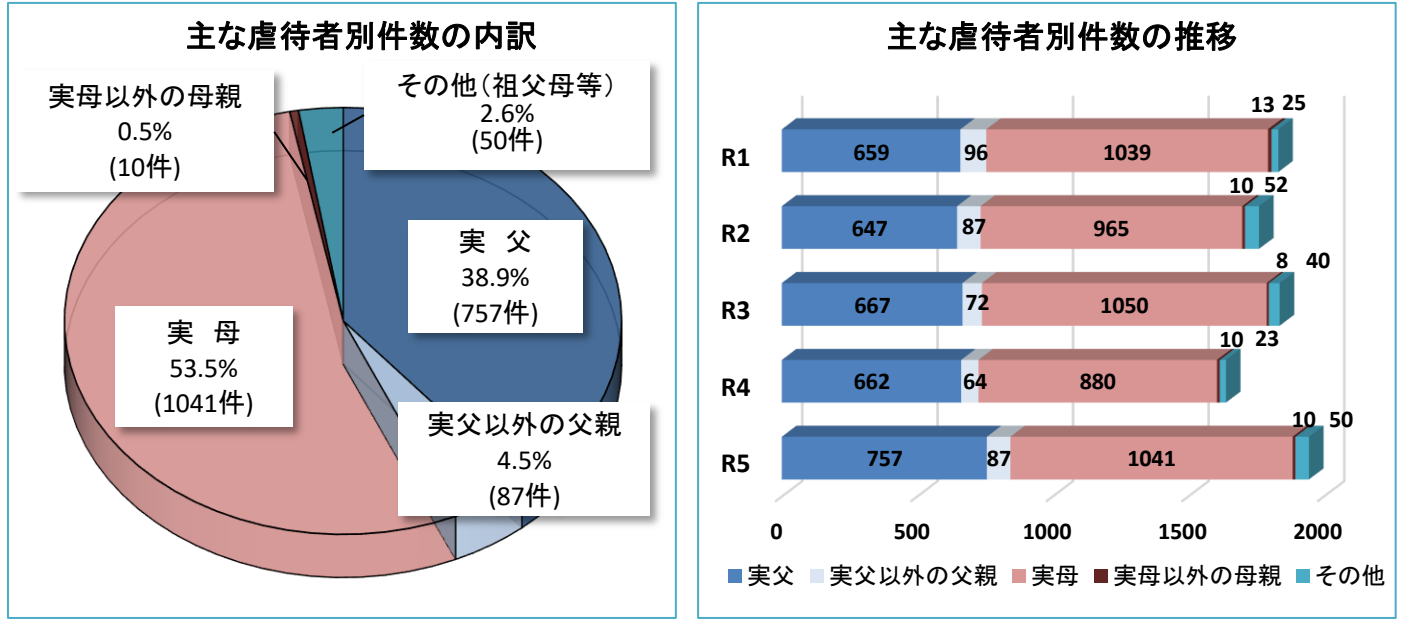


主たる虐待の種類



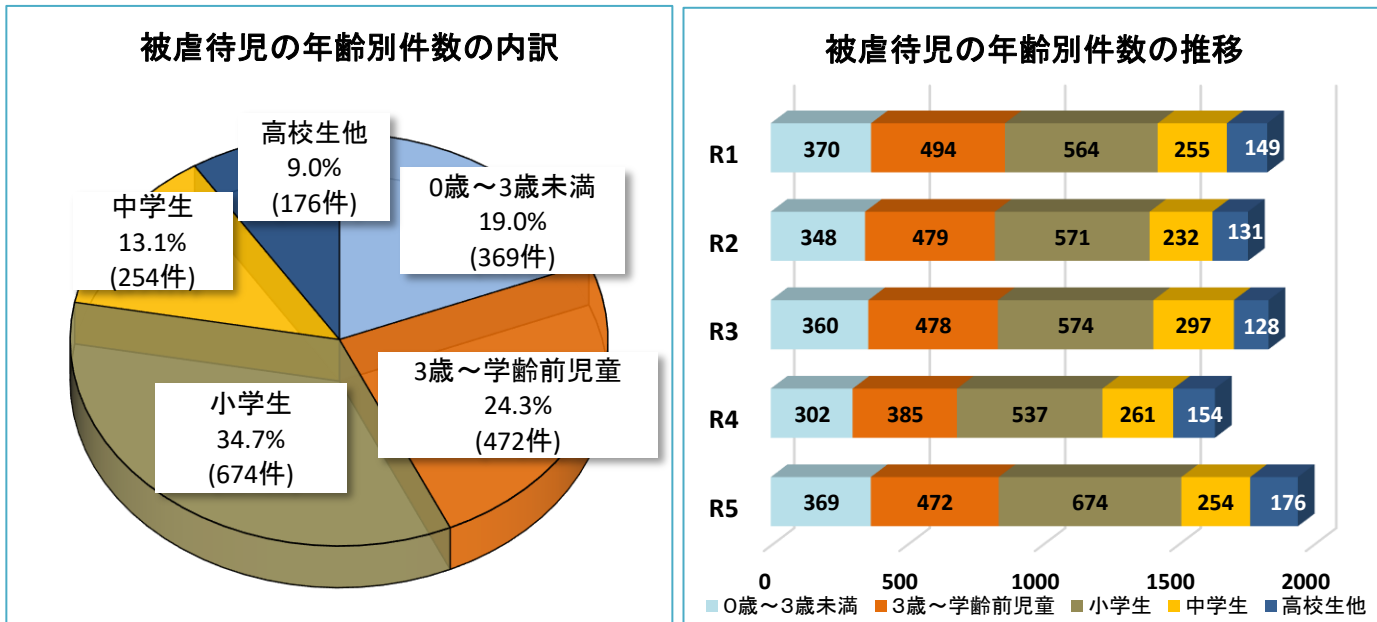
「心理的虐待」が最も多く、次いで「身体的虐待」、「ネグレクト」の順に多い。前年度と比較すると、心理的虐待が127件増(15.7%増)、身体的虐待が96件増(22.7%増)、ネグレクトが73件増(19.0%増)、性的虐待が10件増(41.7%増)となった。「心理的虐待」が全体の約半数を占めており、その傾向は前年度と同様である。

主な虐待者



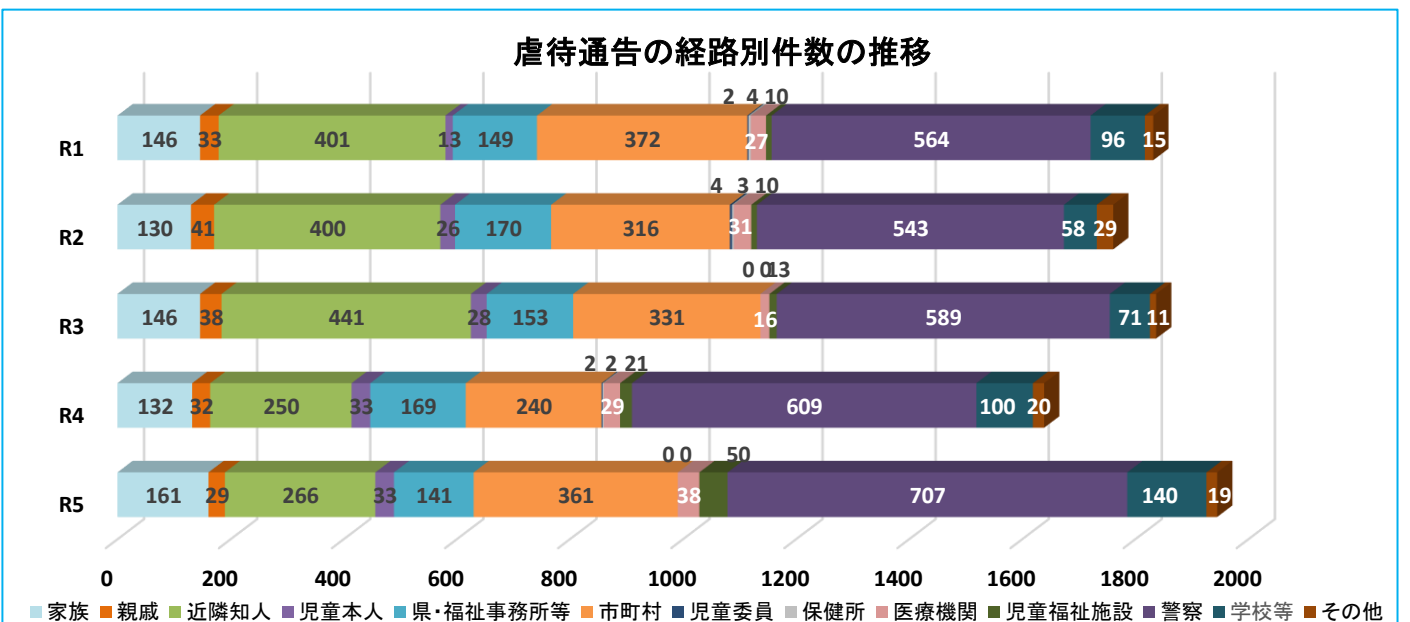
「実母」の件数が全体の半数以上を占め、「実父」と合わせた「実親」の件数が、全体の9割以上を占めている。前年度と比較すると、「実父」が95件増(14.4%増)、「実父以外の父親」が23件増(35.9%増)、「実母」が161件増(18.3%増)、「その他(祖父母等)」が27件増(117.4%増)となった。傾向については、前年度とほぼ同様である。

被虐待児の年齢



前年度と比較すると、「0歳～3歳未満」が67件増(22.2%増)、「3歳～学齢前児童」が87件増(22.6%増)、「小学生」が137件増(25.5%増)、「高校生他」が22件増(14.3%増)となった。傾向については、前年度とほぼ同様である。

虐待通告の経路



「警察」「市町村」「近隣知人」の順に件数が多く、前年度と比較すると、「警察」が98件増(16.1%増)、「市町村」が121件増(50.4%増)、「近隣知人」が16件増(6.4%増)となった。